



あなたも参加しませんか? オイスカサポートの輪  
大好き日本の食卓

#### 推進協議会の活動報告

- ◎坂出 ◎高松
- ◎徳島県 ◎綾川
- ◎中讃 ◎三豊
- ◎高知県

### 国連「生物多様性の10年」がスタート 「子供の森」計画が果たす役割とは?

### フイリピン マンゴローブ植林に参加して



Cultivate the Future  
—大地と人に、もっとドラマを—



No.1: 焼き魚



グシビ アルビアナさん(24)  
マレーシア・サバ州出身

香川に来て1年のアルビアナ(通称:ガディ)さん。出身国はマレーシア。友達とのおしゃべり、各国のダンスを教えてもらうのが好き。今、一番したい勉強は洋裁。

### 好きなのは鮭と酒

日本に来て好きになつた食べ物は鮭です。

私の故郷では、自分で釣った川魚をさばかずにそのまま煮たり、揚げたり、焼いたりして、私の大好物です。日本で初めて魚をさばいた時は魚をぼろぼろにしてしまいました。鮭は大きくて、鱗もたくさんあるのですばくのは大変ですが、ちゃんと焼きやガーリック焼きにするとてもおいしくて、大好きではないのでまだ食べられないのですが、鮭の刺身なら食べられそうな気がするので、今度、機会があれば挑戦してみたいと思っています。



ガーリック焼きはセンターの人気メニュー

酒です。お客様が参加するパーティの時だけお酒が飲めます。マレーシアにいるときは母が作ったタピオカやお米のお酒をお祭りのときに飲むのを楽しみにしていました。日本には日本酒と焼酎というものがあると聞きました。パーティーがあるときにはぜひ挑戦したいと思っています。

#### オイスカの会員・支援者になって国際協力活動に参加しませんか?

オイスカが進める人材育成、海外開発協力、「子供の森」計画および啓発普及活動は、長期的な取り組みが必要です。継続的なご支援をお願いいたします。

今すぐできる支援の方法は5つ 無理なく続けられる方法をお選びください

##### ■支援内容

<b>1 每月の継続寄附</b>	毎月500円でオイスカ活動をトータルにサポート。8月に年次報告書が届きます。 ●ワンコインサポーター···500円×12ヶ月 ※月々の自動引き落とし 毎月2,000円からのオイスカ活動トータルサポート。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●マンスリーサポーター···2,000円~×12ヶ月 ※2,000円以上、任意(1,000円単位)の金額で月々の自動引き落とし
<b>2 自由な寄附</b>	各種活動の推進のための寄附です。時期、金額(1,000円以上)、回数は自由で、いつでも、何度も支援する事業をお選びいただけます。 ●海外開発協力事業 ●「子供の森」計画事業 ●人材育成事業 ●啓発普及事業(国内の森づくりなど啓発普及全般) ●啓発普及事業(海岸林再生プロジェクト) ●トータルサポート ···1,000円~(いつでも何度も) ※1,000円以上のお申込みで、金額は任意となります。
<b>3 「子供の森」計画支援</b>	年間1口5,000円で「子供の森」計画を支援してくださる方を募集。 支援証、活動を伝えるニュースと現地の子どもたちからのグリーティングカードが届きます。 ●「子供の森」計画支援···5,000円/年
<b>4 賛助会員</b>	オイスカの活動に賛同し、ともに歩んでくださる方を募集。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●維持会員···20,000円/年 ●特別会員···50,000円/年
<b>5 集めて送る</b>	自宅にいながら参加できるボランティアです。ベルマークは1点=1円で「子供の森」計画に、書き損じはがきは各種活動推進のために使われます。 ●ベルマーク ●書き損じはがき

##### 問い合わせ先

◆四国支部	〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15 第二讃機ビル2F	TEL: 087-821-1503
◇高松推進協議会	〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15 第二讃機ビル2F	TEL: 087-821-1503
◇坂出推進協議会	〒762-0011 香川県坂出市江戸町1721-10[(株)石井内]	TEL: 0877-45-0141
◇三豊推進協議会	〒769-1502 香川県三豊市豊中町笠田笠岡3915-3[(株)イナダ内]	TEL: 0875-56-6001
◇香川東推進協議会	〒769-2304 香川県さぬき市昭和5806[高松東ファクトリーパーク さぬき市管理組合内]	TEL: 0879-52-5070
◇中讃推進協議会	〒763-0034 香川県丸亀市大手町3-2-1[四国電力(株)丸亀営業所内]	TEL: 0877-22-5973
◇綾川推進協議会	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1[オイスカ四国研修センター内]	TEL: 087-876-3333
◇徳島県推進協議会	〒770-8555 徳島県徳島市寺島本町東2-29[四国電力(株)徳島支店総務課内]	TEL: 090-3181-0158
◇高知県推進協議会	〒780-0870 高知県高知市本町1-6-24[高知商工会議所総務部内]	TEL: 088-875-1177
◆四国研修センター	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1	TEL: 087-876-3333

[Web] <http://www.oisca459.org/> [E-mail] [oiscastc@oisc.org](mailto:oiscastc@oisc.org)



# グローバル活動

オイスカの植林活動が国内外で人づくりという成果を生んでいます。



- 地元の方達が植林場所の選定の段階から植林に参加することで、自分達の土地や環境問題について意識を持ち、主張的に関わっていく。
- 何かやりたいと思っているが行動に移せない団体を巻き込む。
- 各方面とつながり、ネグロス全体で活動していく協力体制の基礎を築く。

## 木を植えることは心に「気」を植えること



カンボジア研修生と一緒に心をこめて植林

**オイスカ四国「山・林・SUN体験」**  
植林ボランティアに四国各地から225名が集結  
平成23年11月13日(日)オイスカ四国支部が主催する「山・林・SUN体験」が香川県まんのう町で開かれました。当時は200人を超えるボランティアが四国各地から集まり、山頂付近の斜面約5千平方メートルに1,500本を丁寧に植えつけました。

この日は森づくり活動協定3団体の他にも、その主旨に賛同した企業・団体(四国電力総連・KDDI・三井住友海上火災)などからボランティアが家族で多数参加しました。天気にも恵まれ、清々しそう天気の中、急斜面では足場の確保に苦戦しながらも、1~2メートルのほどの苗木を、間隔に気を付けながら植えつけ。植林の他にも、森の講習会やオイスカの海外研修生との国際交流も行いました。

参加者からは、

「一家で植林活動や清掃活動、国際交流を体験することができボランティアについて考えるきっかけとなった。今後も参加していきたい。早く大きくなつて桜一杯の山になつてしまい。」などの声があがっていました。



### 国内植林

#### 二人の交流から始まった 植林活動の輪

今回の植林は、かつて四国で研修をしたアラン氏がサガイ市から要請を受け、長年お付き合いのあった稻田会長と共に

地元の方達が植林場所の選定の段階から植林に参加することで、自分達の土地や環境問題について意識を持ち、主張的に関わっていく。

森に広がってくれよとエールを贈ります。気づけば、自分の心中にもマンゴーブの森が広がっていました。

実際に木を植えることも大切。極端なことを言えば、木を植えて環境を変えるのは、誰にでも、心がなくてもできます。しかし、そうではない大切なことは、参加するそれぞれの心で、環境を、他国の人を、その歴史や生活を思ふ「心」の苗木が植えられ育てられていくことなのではないでしょうか。この植林は、そういう小さくて目に見えない第一歩のきっかけになりました。

森に広がってくれよとエールを贈ります。気づけば、自分の心中にもマンゴーブの森が広がっていました。

実際に木を植えることも大切。極端なことを言えば、木を植えて環境を変えるのは、誰にでも、心がなくてもできます。しかし、そうではない大切なことは、参加するそれぞれの心で、環境を、他国の人を、その歴史や生活を思ふ「心」の苗木が植えられ育てられていくことなのではないでしょうか。この植林は、そういう小さくて目に見えない第一歩のきっかけになりました。



苗木を運ぶ者、穴を掘る者、植える者。多くの人々の力で植林は進みました

#### たぐましく生きるマングローブが根づかせた「心の苗木」

苗木5000本を植林した後、前年の植林地へ向かいました。そこは植林後の大雨で、多くの苗木が流されてしまったと報告を受けていたので、「全滅かも知れない」と諦めていた私たちの前に、わずかでしたが生き残って根を張っている小さなマングローブがありました。昨年植えた辺りに残っているのを確認してほつとしたり、懐かしんだりする者。倒れかけたマングローブに支えをする者。そして「また嵐が来たらどうなるのだろう、何かいい植え方はないものか」と話す者。自分達の植えた苗木が必死に根を張り、育っている姿を見た時に、無条件に嬉しく、胸が熱くなりました。

そしてどうか頑張って育つて、豊かな

「外国の生活模様、彼らの現状を自分で見て知つてほしい。そして、広い世界の様々な現実を知ることで日本人に『もつとしっかりと、頑張ろう』と伝えたい」オイスカの三豊推進協議会会长の稻田氏の思いが込められた植林は、カンボジアの5年を経て、フィリピンネグロス島にて2年目を迎えるました。

苗木5000本の植林した後、前年の植林地へ向かいました。そこは植林後の大雨で、多くの苗木が流されてしまつたと報告を受けていたので、「全滅かも知れない」と諦めていた私たちの前に、わずかでしたが生き残って根を張っている小さなマングローブがありました。昨年植えた辺りに残っているのを確認してほつとしたり、懐かしんだりする者。倒れかけたマングローブに支えをする者。そして「また嵐が来たらどうなるのだろう、何かいい植え方はないものか」と話す者。自分達の植えた苗木が必死に根を張り、育っている姿を見た時に、無条件に嬉しく、胸が熱くなりました。

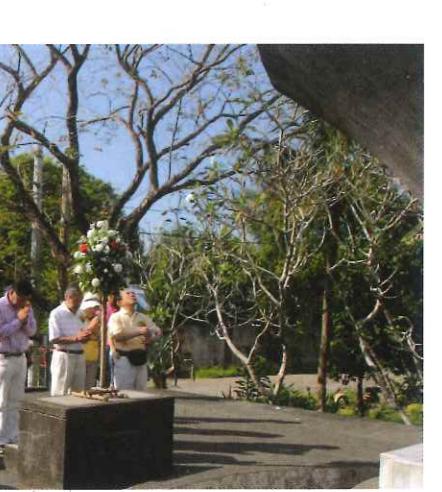
そしてどうか頑張って育つて、豊かな

## マングローブ植林に参加して マングローブ植林に参加して

### 環境への思いを 行動にかえる国際協力

#### たくましく生きるマングローブが根づかせた「心の苗木」

#### 根づかせた「心の苗木」



植林を行う前、ネグロス島にある第二次世界大戦日本人戦没者慰霊碑に折りを捧げました。

現在、この慰霊碑は現地の人々が敵も味方もなく、手厚く守り続けてくれています





## 「子供の森」計画事業

# 国連「生物多様性の10年」がスタート 「子供の森」計画が果たす役割とは…

**「子供の森」と地球サミット賞**

「子供の森」計画は平成3年にフィリピンの17校でスタートした活動です。子どもたちの手による森づくり運動は、それまでオイスカが育てて来た各国の人材、つまり研修生OBにより瞬く間に世界中に広がってきました。翌、平成4年、オイスカ・インターナショナルの中野良子総裁は、ブラジルのリオデジャネイロで開催された、地球サミットと呼ばれる「環境と開発に関する国連会議」に参加し、「地球道德」をアピール。これは、人間本位の発想ではなく、大自然を軸に考えて行動することの重要性を説くもので、具体的な行動として「子供の森」計画を世界中に発信しました。



CNNやブラジル政府などと共に  
国連地球サミット賞を受賞



未来を担う子どもたちの環境教育であるこの活動は国際的に高い評価を受け、翌年、オイスカは唯一のNGOとして「国連地球サミット賞」を受賞しています。

### 20年振り返って

その地球サミットから20年が経過。世界を見渡せば、開発の面で飛躍的な改善や成長が見られた国や地域もありますが、環境はどうでしょうか。気候変動や生物多様性の損失といった問題が深刻化しているのが実情です。そのような問題解決に向け、平成24年6月、再びリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議」(※)が開催されます。

この20年、オイスカは地道に活動を続け、「子供の森」計画は世界28の国と地域、4400校にまで広がり、

大きな国際的な動きの中でオイスカができるることは限られていますが、ご支援くださる皆さんと共に歩んでまいります。

### ※リオ+20

リオ+20は、平成24年6月にブラジルのリオデジャネイロで開催される「国連持続可能な開発会議」のこと。平成3年に同地で開かれた「国連環境開発会議(通称地球サミット)」から20年目となることからリオ+20と呼ばれています。この会議では、「グリーンエコノミー」「持続可能な開発のための制度的枠組み」などを主要テーマに話し合いが行われます。

子どもたちの笑顔と緑を増やしてきました。「お互いの主義主張ばかりを振りかざす会議を繰り返しても何も変わらない」「具体的な行動で問題を解決しよう」と考えてオイスカを創設した中野興之助翁の思いが今もここに引き継がれています。

オイスカは、国連生物多様性条約事務局と協働関係を築いて活動を展開。同事務局のジョグラフ前事務局長(左)とオイスカの永石事務局長。(平成22年のCOP10にて撮影)



### 世界とつながろう。グリーンウェイブ! 難易度★★★のアクション紹介

5月22日(国連生物多様性の日)に世界中の子どもたちが一齊に木を植えて緑の波(グリーンウェイブ)を作ろうというキャンペーンに「子供の森」計画も参加しています。

皆さんと一緒に、緑の波を作りませんか?

詳しくはこちら  
<http://www.kodomono-mori.info/>

皆さんのアクション、お待ちしています!

### 誰にでもできる! 難易度★★のアクション紹介

1 ベルマークを集める

2 下記住所に送る

〒760-0017 香川県高松市番町2-7-15  
第二讃機ビル2F オイスカ四国支部

ベルマークで「子供の森」計画の支援ができます。  
1点=1円の支援につながります。

**香川 中 譲**

会長・中野 百合子

**絆をつなぎ広げようオイスカの輪**

平成23年10月23日、中譲推進協議会の会員でもある「山一木材」の恒例イベントで、いつも親子連れなどの人々にぎわっています。このイベントにオイスカ四国研修センターの職員と研修生2名も一緒に、今回初めて参加させていただきました。当日はオイスカ活動のPRを行い、研修センターで育てた有機野菜、有精卵玉子、果物ジャムなどを販売し、充実した一日を過ごすことができました。作り手のこだわりの品を売るというイベントだったため、環境を配慮しながら栽培するオイスカの野菜などに興味を持っていただいたお客様もいました。今後は、丸亀通町商店街「みたら市」への出店と共に、中譲推進協議会の活動の一つにしていきたいです。



販売した野菜、卵、加工品はオイスカ自慢の一品

研修生(中央)も一生懸命販売した

**香川 坂 出**

会長・石井 淑雄

**愛され親しまれるオイスカ、めざせ会員増強!**

坂出推進協議会では国際交流・協力事業の一環として坂出白峰ライオンズクラブのYE生(youth exchange)2名の受け入れに際して、オイスカ四国研修センターに1泊2日の体験入所をお世話させていただきました。ミカンの収穫や養鶏作業、串揚げ作り等、普段やらない農作業や調理を体験しました。夜にはマレーシアにあるオイスカ研修センターの話を聞く機会やセンターのマレーシア研修生とのディスカッションなどもありました。朝6時半の点呼から始まり、夜10時の消灯で眠りに就くセンターでの規律ある生活をしている研修生を見て「貴重な体験をしました。今後の進路に生かします」と感想を述べました。そして昼食後に全員に見送られながら帰途につきました。



(左より)YE生のチンさん、レオンさん。マレーシア研修生ピクトール。受け入れ先の宮崎博文さん

常夏のマレーシアと異なり、冬の農作業はとても寒かった!

**高知 高知県**

会長・西山 昌男

**1人がひとりの会員確保を目指します**

平成23年7月12日、「総会」および「四国のつどいin高知」を開催しました。四国のつどいでは、オイスカ四国研修センターの有機農業研修生5名と農業指導者1名を含む総勢約50名が参加。研修生から、出身国の紹介や歌を披露しました。また、研修センターで毎日行う点呼などを併せて実演していただき、研修生との交流を深めました。同年8月19日には、恒例の夏休み親子ふれあい木工教室を四国森林管理局との共催で開催。子どもたちの夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への理解を深めることができます。その中で研修生を中心に一万ピースのつみ木で「森のつみ木教室」を行いました。子どもたちだけではなく、保護者の皆さんから「童心に返って楽しかった」、「子どもの笑顔に癒された」と、たいへん好評でした。



いつしか大人もつみ木に夢中になります

**徳島 徳島県**

会長・米田 豊彦

**できることを、みんなの力で、オイスカ徳島県**

女性部が中心になり四国研修センターの研修生との料理教室を平成23年9月と平成24年2月に実施しました。会員の方だけでなく、まだオイスカのことをご存じない方にも参加していただき、ミャンマーやインドネシア、チベットの料理と一緒に作り、交流を深めました。普段、作ったことのない異国の料理と一緒にすることで研修生や海外の国を身近に感じ、楽しかったと大好評でした。平成13年から平成18年まで徳島県支局(現:徳島県推進協議会)会長を勤められ、徳島県支局の発展に多大な貢献をした徳島県支局元会長佐野一郎が、平成23年9月、逝去し、ご遺族から四国支部へ、ご寄付をいただきました。これを受け、四国支部会長山野義正より、ご遺族へ感謝状が贈られました。



自分の国についても日本語で紹介しました

**香川 綾 川**

会長・大方 義裕

**会員増やしてホップ・ステップ・ジャンプ!**

平成24年新春役員会が1月7日に四国研修センターの新年会に先立ち開催されました。国歌斉唱から始まり3曲を合唱。昨年は東北地方で悲しい出来事もあり出席者一人ひとり身の引き締まる想いで力強く歌っているのが印象的でした。大方会長の初頭の挨拶、来賓として四国研修センターの柿沼所長の挨拶をいただき、特別編成として昨年東京で開催されたオイスカ創立50周年記念行事の様子が上映されました。引き続き、四国研修センター主催の新年会に参加しました。参加者は「一品持込」ということで、品物、数量に係わらず個性豊かな品々を新年会の参加者に振舞いました。研修生やセンター職員、他の参加者と共に書き初めで書いた新年の抱負などを語りながら新年を祝いました。



大方会長の「一品持込」はご自慢のワイン



参加者の個性的な抱負に会場からは拍手や笑いが

**香川 香川東**

会長・富田 義雄

**会員増強で輪をより大きく**

平成23年10月、香川東推進協議会の山下一馬氏が寄贈された農作業機械の操作点検のため、山下氏本人をはじめ、寒川幸男氏、他3名で、マレーシア・サバ州のオイスカセンターを訪問しました。当日は天気も良く寄贈されたコンバインで20aあまりの水田の稲刈りを、現地研修センター職員、研修生たちとトラブルもなく終えることができ大変喜ばれました。整備が行き届いているので現地の米にも対応でき、今後も十分働きが期待されます。出荷作業に必要な乾燥機、粉碎機、選別計量機の点検設置も無事終えました。これらの機械で、栽培・収穫の作業が効率的にでき研修生に対して貴重な体験学習となります。また、周辺農家にもより有効活用され、将来的に今回が良い事例となることを期待します。



コンバインの動きをじっと見守る山下一馬氏(左から2番目)



日本の機械に現地スタッフも研修生も興味津々

**香川 高 松**

会長・加藤 英輔

**取り組もう協議会の活性化**

オイスカ香川女性部が発展的解消後、女性部員の多くの方が高松推進協議会へ入会していただきました。新入会の方々から「月に1度集まって何かに参加したい。」という強い希望があったので、オイスカ四国研修センターで学ぶ研修生のお国料理を学びながら交流をする会を計画しました。第1回目は研修センターやオイスカの活動について知っていただくことを目的に、実際に研修センターの施設や研修の様子を見学していただきました。新入会の会員の方とその家族も一緒に参加されました。ご家族の方は、「オイスカの名前は知っているけれどどんなことをしているのかよく分かりませんでした。海外の研修生ががんばっている様子に感動しました。」との感想を述べられました。オイスカを知る人の輪がまた、ひろがりました。



研修生と交流しながらの食事を楽しめました



オイスカの成り立ちや活動内容を紹介しました